

森林の里親事業による里山の整備

〜企業と地域がいつしよになって森林整備〜

森林の整備と利用に意欲を持った森林を所有する地域と社会貢献に意欲ある企業とが連携して森林づくりに取組み、長野県がその橋渡しをする「森林の里親推進事業」によって、平成十六年から佐久市の協和財産区と(有)クリーデンス(佐久市長土呂)が五カ年の契約を結び、四一五ヘクタールで間伐等の森林整備を進めています。毎年の資金提供のほか、「クリーデンスの森林」と名づけられた森林において、都市住民等の森林作業体験など地域との交流も図られています。

また、小諸市と沖電気グループ(本社 東京都港区)では、平成十六年から五カ年の契約を結び、小諸市内の森林二一八〇ヘクタール内で、森林整備を進めています。毎年の森林整備への資金提供のほか、年二回(春と秋)に沖電気グループの社員有志が集まり「沖電気グループが育てる森」と名づけられた森林において、間伐作業や炭焼き体験などが行われています。

「クリーデンスの森林」での間伐作業



「クリーデンスの森林」と参加者の皆さん

「沖電気グループが育てる森」と参加者の皆さん



「沖電気グループが育てる森」での除伐作業

森林の里親促進事業とは

活動フィールドを提供する集落等と森林整備の資金、労働力を提供する企業が森林の里親契約を結び、連携して森林づくりを進める事業です。

現在の里親促進事業の状況は

長野県内では、20ヶ所で活動が進められています。企業のほかには、生協、駒澤大学高校なども森林整備の資金、労働力を提供し、森林づくりを進めています。

地域の森林を活用して里親になりませんか？

あなたの森林を保安林にしませんか？